

シンポジウム4

輸血細胞治療2 「未来につなげる輸血医療を目指して～さまざまな視点から効率化を考える～」

血液センターにおける血液製剤の効率性を求めた供給業務

◎小田 秀隆¹⁾

福岡県赤十字血液センター¹⁾

日本赤十字社血液センターは、献血者から血液を採血する採血業、献血された血液から血液製剤を製造する医薬品製造業、血液製剤を医療機関へ納品する医薬品販売業の3業から成り、都道府県血液センターの学術情報・供給課は医薬品販売業を担っている。医薬品販売業にあたる供給業務は、輸血用血液製剤の安定的な供給や過不足のない適切な需給管理による効率的事業運用が求められており、近年、それらを実施する柱として、WEB発注システムを用いた血液製剤発注と定時配送を推進している。血液製剤の発注方法には、電話、FAX、WEBがある。電話、FAX発注の場合、血液センターでは受注後に血液センター統一システムへの入力作業が必要となる。受注件数は一日のうちで午前1便（午前10時配送出発便）が最も多く、過誤入力などによる修正や訂正作業があると配送出発時間に遅れが生じる。一方WEB発注は受注後の入力が不要であるため、すぐに血液製剤の出庫準備ができ、定時配送出発に余裕ができる。福岡県における輸血実施医療機関の約60%は赤血球製剤だけの使用で、そのうち約90%は年間100単位以下の供給である。このような医療機関では、前回履歴を参照できるWEB発注は入力の過誤防止に有用で、発注内容の相互確認も容易となる。定時配送は、医療機関との連携によりこれまでも努力してきたところである。血液センターは、限られた台数の献血運搬車や配送に係る人員で一日の定時配送便数や配送ルートを設定している。医療機関では、輸血予定や使用状況を把握し院内在庫調整のために血液製剤の発注を行っていると思われるが、定時配送外の発注が増えると定時配送そのものに支障を来し、非効率的な供給は多くの医療機関に影響を及ぼす。また緊急走行による血液製剤の配送は、通常走行に比べて職員の使命感と緊張感は強く、交通事故につながる危険性も増す。医療機関の需要に適切に対応することは血液センターの責務であるが、迅速かつ効率的な血液製剤の供給には、医療機関と血液センターとの間で日々の情報や時々々の状況を共有し、相互の理解を基盤とした緊密な連携がとれる体制構築が望まれる。